

1. 種苗網ヒビの管理経過

大分県臼杵市に搭載中の図9が11月14日に大分県水産試験場から運付(ポリエチレン袋に海水を少量入れた中に網ヒビを入れてあつた)を受け取り船内陸所に懸垂保管(臼杵市出帆)11月17日午後4時30分那覇泊港着直ちに図9丸より受領の上当所并合の陸所に納め管理し11月21日前記場所へ敷設放棄した

2. 網ヒビ設置後の経過

敷設後12月23日、1月6日、2月21日の3回調査したのであるが12月23日調査時にはヒトエダサの着生は見受けられたがアマノリの成育は見受けられず着位置が低く干出時間の短いためかとも考えられたので干出4時間程に引上げたが1月6日調査時においてもアマノリの成育は見受けられなかつた。2月21日の調査で種に紅藻の成育が見られたが中々幹長30~40程でいづれも螺旋状にねじれてからまり会つて普通のアマノリいわりの様な葉状を呈しているものはなかつた。

このような状態で期待はかけられなかつたので4月27日まで放任してあつたが2月21日調査時と同じ状態で伸長の跡が見られなかつた。

考 察

種苗ヒビ受領後直ちに顕微鏡による検査の結果胞子の着生は良好とは言えなかつたが成育伸張が悪いのはあさくさのりの棲息地は鹿児島県までであり当地は水温が高く周囲の条件が悪いためだと思料される。

2. わかめ増殖試験

趣 旨

ワカメは庄時から食用として使用されているが日本々土産のもので鹿児島県以南にて産出されず黒潮の影響を受けるところには生産されないものと言われているが、これが琉球において増殖可否について調査検討することも後海利用増殖上必要なことである。今回大分県水産試験場の厚意により種苗の供給を受けたので本試験を実施することにした。

試験方法

竹の浮標に垂り下げの方法によるものであるが長さ2メートル径3センチメートルの竹三本を結束したものを5度を25メートルの間隔で梯状に連結したものを水面に浮べ水面下4メートルの深度に標相箱を水平に吊り下げ(長さ10メートルのもの2本)その標に種苗(種付けしたタレモナ糸を約40センチメートルづつに切断したもの)を30センチメートルおきに挟み放棄し一ヶ月毎にその経過を調べることにした。

試験場所

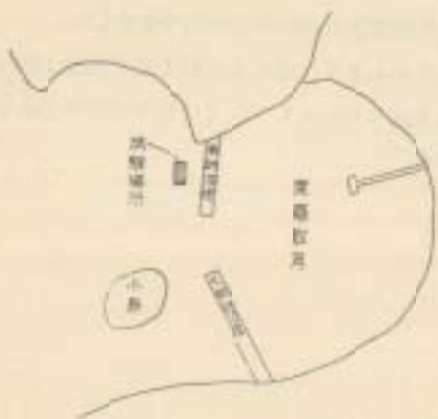
鹿児島村度嘉敷港の防波堤の東方約50メートル位までは底質岩石で水深3メートル位の場所があるがその中防波堤から約10メートルの箇所に径1.5メートル長径30メー

ル位の箇所があつて外海水の影響を受け交流も適当で又人家から近く管理の面からも適当と認められたので該所において実査することにした（別図参照）

経 過

島内の陸所に巻藻採集の種苗（人工採苗により種付したクレモナ巻糸（40本合）約10メートルを海水少量とともにビニール袋に入れたもの）を11月17日入港の四兩丸から受領事務所内陸所に保管し11月20日夜高敷村改良敷帯外に前記方法で敷設した。11月21日調査時に筏の片方の碇縄が切れてからまり、波にもまれて底の岩礁と触れ合つて巻糸磨耗損傷し縄に挟んだ種苗クレモナ糸も磨り切れてくづれていたのので先の見込み立たず敷設を撤去し結果を見ることは出来なかつた。

試驗場所略圖



試驗場在設圖

